

平成 30 年度授業改善プランの検証

取組における成果と課題

- ・実験については、各自の技能を確認しながら操作を繰り返し、個々の技能の定着を図った。全体的に実験の技能は上がってきているが、個人差が未だに大きいため、継続的な指導が必要である。
- ・科学的思考は論理的な現象の説明や実験の説明ができるように発問を工夫した。少しずつ向上してきているがまだ十分に高いとはいえないので、生徒に考える機会を多く与え、論理的な思考を育みたい。
- ・教科書の内容について的小テストやノートやプリントの点検を継続的に行い、知識を定着させることができた。今後も継続して行いたい。

理科における調査結果の分析

内容結果の分析	<p>< 1 年生 > 「植物のつくりとはたらき」「電気の利用」は正答率が高いが、「大地のつくりと変化」「動物のからだのつくりとはたらき」は目標値よりやや低い。</p> <p>< 2 年生 > 「気体の性質」「音の性質」などが目標値より高い。「火山」「物質の状態変化」は正答率がやや低い。</p> <p>< 3 年生 > 「化学変化」「動物のからだ」「前線の通過と天気の変化」では目標値を大きく上回っている。「化学変化と質量の変化」「生命と細胞」では正答率がやや低い。</p>
観点別結果の分析	<p>< 1 年生 > 「科学的な思考・表現」と「観察・実験の技能」は目標値を上回っているが、その他の観点はやや低い。</p> <p>< 2 年生 > 「科学的な思考・表現」はやや目標値を上回っているが、その他の観点はやや低い。</p> <p>< 3 年生 > 「観察・実験の技能」などが目標値を大きく上回っているが、「自然事象についての知識・理解」の正答率がやや低かった。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

(科学への関心)	科学への興味を高める工夫をしていきたい。
(科学的な思考)	授業中に科学的に考える時間を設けたい。
(観察・実験の技能・表現)	実験の中でも、個への指導などを徹底し、実験を通して、気付かせ、納得させる授業展開を行う。
(自然事象についての知識・理解)	科学的用語や基本的な知識の定着を図りたい。

理科の授業改善策

(科学への関心)	学んでいる内容が身近なものにつながっている事を説明するとともに、実験を通して実際に体感する授業により、関心を高め、科学への興味を高めていく。
(科学的な思考)	現象の仕組みや実験の結果を論理的に考えられるように発問やワークシートやノートを工夫する。発表の時間を意識的に設け、物事を整理して伝える機会を増やし、向上を図る。
(観察・実験の技能・表現)	全員が器具操作をできるように、各自の技能を確認しながら繰り返し行う。できる実験操作を確実に増やしていくことにより、生徒に自信をもたせていく。
(自然事象についての知識・理解)	小テストなどで、毎時間ごとの理解すべき内容を明確化する。また、用語の復習を行い、理解度の向上を図る。